



水行を行う5人の荒行僧（2日、延岡市の本東寺）

本東寺で厄除け大祈禱 岡

3/4 水行で無病息災を祈願 延

延岡市松山町の本東寺（吉田海心住職）で2日、「星祭りの厄除け」よ、節分豆まきが行われ、

一年の無病息災などを祈った。

午前10時からの「水行」は、開始前から多くの参拝客やカメラ愛好家でにぎわった。うちわ太鼓を鳴らす檀（だん）信徒たちが「南無妙法蓮華經」を唱える中、吉田静正副住職ら5人の荒行僧が登場。着物を脱いでふんどし姿になった5人は、日蓮宗に700年以上続くというお経「水行肝文（かんもん）」を声をそろえて唱え、わらで包まれたたるの中の水をおけてすくうと、勢いをつけて頭の上からかぶった。

「水行の水がかかると難が逃れる」との言い伝えがあり、荒行僧の間近では、手を合わせた参拝客が水しぶきを浴びながら水行を見守った。本堂では、海心住職や水行で身を清めた荒行僧らが祈禱。大勢の参拝客が手を合わせた。続いて行われた豆まきでは、同寺に祭る「鬼子母神」が出て行かないようにと「鬼は外」は言わず、年男、年女、厄年の人らが「福は内」の掛け声と共に豆をまき、参拝客は笑顔で季節の行事を楽しんだ。